

寅さん歩 その14

東京に こんなところ-6



平野 武宏

首都東京は徳川幕府の江戸から明治維新へ、そして関東大震災・太平洋戦争の被災で壊滅から復興、1964年(昭和39年)の東京オリンピックによる街並み・交通網の再整備と時代と共にその姿を変えています。そして2020年(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、更に近代的な姿に生まれ変わろうとしています。

「寅さん歩」で東京を歩き回っている寅次郎は「東京にこんなところもあるのだ!」と思わせる場所に出会い、感動しています。新シリーズとして取り上げ、紹介します。都民暦約4年の「寅次郎基準」で選んでおりますので、ご容赦下さい。最寄り駅は代表例です。

～首都は守護神に守られています～

古代中国では方角を守護するとされる想像上の神獣がいます。東の「青龍」、西の「白虎」、南の「朱雀」、北に「玄武」です。東洋では王都をつくる時、陰陽学(風水)の思想をとり入れ、「四神相応」の良い土地を選びます。

「東に青龍の宿る川」、「南に朱雀が宿る海」、「西に白虎が宿る大道」、「北に玄武が宿る山」がある土地のことです。

日本でも平安京が四神の思想を基に造営されたと言われ、邪気を払い、繁栄をもたらすため、四方の山や川などの地形を四神に見立てたと伝わります。

徳川家康も江戸開府に当たり、この「四神相応」を意識したと言われます。

東(青龍)=川=隅田川、南(朱雀)=海=江戸湊(東京湾)、西(白虎)=大道=東海道、北(玄武)=山=神田山(駿河台)更に風水的観点の鬼門(北東)の上野に寛永寺、裏鬼門の芝に増上寺が配置され、徳川家の菩提寺として祀られました。江戸の四方に展開した五色不動も同じ役割を果たしています。四神のモニュメントが江東区にありました。近くを歩いたこともありましたが気が付かず、通り過ぎていました。

〔江東の四神〕

平成4年（1992年）江東区は副都心計画構想が持ち上がり、亀戸周辺を飛躍させる意味を含め、地名にちなみ「羽が付いた亀」の像を亀戸駅前に作りました。これが後の「玄武」となりますが、当時はまだ四神の一つという認識はなかったそうです。

〔玄武〕

総武線亀戸駅前に鎮座、北の方角を守護。



〔青龍〕

都営新宿線 東大島駅前に鎮座、東の方角を守護。



〔白虎〕

東京メトロ有楽町線豊洲駅前に鎮座、西の方角を守護。



〔朱雀〕

東京メトロ有楽町線新木場駅からバス利用、若洲公園に鎮座、南の方角を守護



亀戸駅前の「羽根亀」を設置した5年後に区再開発事業で整備された東大島駅前広場に何かモニュメントを置くことになり、区は亀の像が「玄武」に似ていることに気付き、四神の設置計画となったそうです。

平成4年（1992年）北の「玄武」、平成9年（1997年）に東の「青龍」、平成18年（2006年）南の「朱雀」、平成27年（2015年）西の「白虎」の四神がそろい、江東区役所に向かって四方を守護しています。

次回は 東京に こんなところ-7 です。

平野 寅次郎 拝